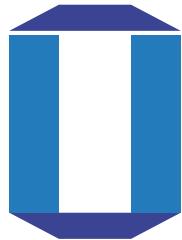


いちょう並木

OKAYAMA UNIVERSITY MAGAZINE



OKAYAMA
UNIVERSITY



＼大学生と高校生が共に夢を育む！／ おかやま 夢育イニシアチブ



Vol. 104

2023

CONTENTS

総合技術部 始動

好き！で輝く 岡山大学の学生たち

研究室の扉をノックしてみた

OU NAVI

令和4年度「学生スポーツ賞」&「学生文化奨励賞」受賞者紹介

大学生が「夢育」にかける思い

おかやま夢育イニシアチブを運営する岡山大学DS部について、企画のきっかけや工夫、高校生に望むことについて聞きました。

DS部として活動して1年が経った頃、「プログラミングやアプリ開発に必要な課題解決力や創造力は、一朝一夕では身に付かない。もっと早いうちから学びたかった」と感じていた伊藤さんと熊谷さん。そこで、高校生に遊びの場を提供したいとDS部顧問の野上教授に相談したところ、岡山県教育委員会が推進する「夢育」の取り組みを紹介された。まさしく、高校生に向けて始めた「おかやま夢育イニシアチブ」は、DS部の学生が教育委員会



伊藤一葉さん
ITO Kazuha
(工学部4年)

熊谷素生さん
KUMAGAI Sou
(工学部4年)

DS部として活動して1年が経った頃、「プログラミングやアプリ開発に必要な課題解決力や創造力は、一朝一夕では身に付かない。もっと早いうちから学びたかった」と感じていた伊藤さんと熊谷さん。そこで、高校生に遊びの場を提供したいとDS部顧問の野上教授に相談したところ、岡山県教育委員会が推進する「夢育」の取り組みを紹介された。まさしく、高校生に向けて始めた「おかやま夢育イニシアチブ」は、DS部の学生が教育委員会

第1、2回は岡山大学のキャンパスを会場に、自身の夢を明確にし、SDGsな視点を手に入れた若者たち。第3回はキャンバスを飛び出して、岡山コンベンションセンター(岡山市北区)で開催された「おかやまSDGsフェア」の中で行われた。同フェアは、岡山エリアにおけるSDGsへの先進的な取り組みを一堂に集めた展示会方式のイベント。当日は約150の企業、自治体、NPO法人等が、「地域」「地球」「産業」「人」をテーマに各

message

突き抜けていく若者を育てる

岡山県教育委員会教育長

鍵本 芳明
KAGIMOTO Yoshiaki



若者の未来の可能性が引き出される場に

岡山大学DS部顧問／岡山大学副理事
(デジタルトランスフォーメーション・情報セキュリティ担当)

野上 保之
NOGAMI Yasuyuki



県教委が進める「夢育」は、生徒たちが自らの夢に挑戦する過程を通して、課題解決能力やそれを支える非認知能力を養っていくという取り組みです。しかし、高校で個別最適な学びを保障しようとすると、先生だけでは対応できない場合もあります。突き抜けていくとする生徒たちの夢をどう支援すべきかと悩んでいたところ、岡山大学から「課外活動として生徒と学生をつなぎましょう」という有り難いご提案をいただきました。生徒たちは、3回のイベントやDS部の皆さんのご支援により、課題解決能力や創造力を身につけながら、自分の夢に向かって走り始めています。

私たちの岡山から、次の時代を切り開く有為な人材を育てていくために、大学生と高校生という次世代の若者たちに、ともに夢を育み、主体的に学ぶ場を提供する「おかやま夢育イニシアチブ」に大いに期待しています。

若者たちの夢は世界へ! 「おかやま夢育イニシアチブ」のグローバルな取り組み



岡山市で開催された「OYW2022」の地域拠点イベント“Hive”的様子。本会場のマンチェスターとライブ中継を繋ぎ、育んだ夢を世界に向けて発信した。



英国・ベルファストで開催された「OYW2023」に本学学生と岡山県代表の高校生が参加。世界の次世代リーダーたちと活発に意見を交換した。

3回 おかやま夢育イニシアチブ 2023年8月2日・3日

岡山県産SDGsを
発掘せよ!



▲宝探ししながら興味津々でブースを回る高校生たち。

▲発掘したSDGsの共通点を話し合う高校生と大学生。所属や年齢の垣根を越えて行う議論は高校生ではなかなかできない経験だ。

第1、2回は岡山大学のキャンパスを会場に、自身の夢を明確にし、SDGsな視点を手に入れた若者たち。第3回はキャンバスを飛び出して、岡山コンベンションセンター(岡山市北区)で開催された「おかやまSDGsフェア」の中で行われた。同フェアは、岡山エリアにおけるSDGsへの先進的な取り組みを一堂に集めた展示会方式のイベント。当日は約150の企業、自治体、NPO法人等が、「地域」「地球」「産業」「人」をテーマに各

ブースで取り組みを展示した。第3回は2日間で構成。1日目は高校生と大学生がグループとなり、各ブースを見学し、岡山県産のSDGsへの取り組みを発掘し、共通点を抽出していった。重要なのはそれらの取り組みが本当に持続可能かといつた。重要なのはそれらの取り組みが本当に持続可能かといふエント。大人たちの取り組みさえも鵜呑みにせず、第1、2回で身に付けたスキルを手に自分なりのSDGsを探求していった。



SDGsを同フェア内のステージで英語により発表。岡山市の天然記念物であるアユモドキに着目し、生態系の保全や地域活性化に向けた取り組みを発表や募金型自動販売機を活用したデモンストレーションが飛び出した。自身の夢を持ち、地域社会に学び、成長した若者たち。未来の大学、地域社会、世界はどのように変わっていくのか。主役は若者たちだ。



▲発表後、英語での質問に答える様子。高校生たちはしっかりと向き合い、自分の言葉で回答した。

参加した高校生の声

片山 桂汰さん KATAYAMA Keita
(岡山県立岡山一宮高等学校1年生)



もともと自然や生き物が好きで、SDGsへの関心を持つようになりました。

今回の参加者の中で唯一の高校1年生、男子の参加者が少ない中で、最初は緊張しましたが、周りの高校生がフレンドリーに接してくれたので、すぐに馴染むことができました。同じ高校生なのにみんなの意識が高く、英語力が高いことに驚きました。また、ブース見学では、岡山ならではのSDGsの取り組みがたくさんあることを初めて知りました。

DS部の皆さん、アドバイスが的確で、リーダーシップがあり、話を進めるのが上手。大学生ってこんなにすごいんだと驚きました。僕は高校の生徒会で副会長をしているので、これからはSDGsの視点を取り入れて、日常生活でも自分たちのできることから積極的に取り組んでいきたいと思います。

上地 恵蓮さん KAMUJI Eren
(英数学館高等学校2年生)



どの企業もテーマが違って、いろんな角度からSDGsにアプローチしていることに驚きました。これまでSDGsという言葉に触れることがありました。数字に沿った考え方や、その取り組みが生む効果など、全体像を考えることはなかったので、自分はまだ知らないことだらけだと感じました。ブースで説明を聞いても、用語がわからないから想像で描くしかなくて、自分の世界の狭さを実感しました。でも、その思いの分だけ、もっともっと知りたいと思いました。

今後、学校でプランニングの授業があるので、今回の経験を生かしてイベントの提案をしてみたいと思います。将来の夢は、教員になること。得意な英語を生かして国際的に人と関わる仕事がしたいと思っています。もっと視野を広げて、自分の進むべき道を探したいです。

技術職員は、研究者とともに課題解決を担うパートナーへ

総合技術部 始動

2023年4月、高い専門技術と専門知識で岡山大学の教育・研究を支える技術職員が所属する全学組織「岡山大学総合技術部」が始動した。従来は各学部や研究科に所属していた技術職員。なぜ全学に跨る組織へと生まれ変わったのか。その狙いに迫る。

変わり始めた 技術職員の役割

10学部7研究科4研究所を有する総合大学・岡山大学では、これまでそれぞれの研究室で発生する業務を補助するために個別に技術職員を配置していた。そのため、全学的に見ると似た役割や技術を有する技術職員が重複して配置されている現状があつた。

総合技術部が目指す未来

総合技術部では、ワークライフバランスを保つつつ多様なキャリアプランを叶えるための制度設計として2つのトラックを新設しました。技術職員の高度化、技術の継承のためには、個々にあったキャリアパスの構築が不可欠です。

全学の技術職員を一元化することにより、一人一人が「部分最適」から「全体最適」の考え方へシフトしていく、「指示+ α 」の付加価値を持った技術を提供するため、縦割りではなく横断的に知識と技術を共有することは必至。そのためには、これまで関わりのなかった技術職員同士がお互いの顔を見て話すことが大きな鍵となると考えています。

個々の技術は違えども、技術を持つ者として共通する部分が必ずある。そこをつなげるのが総合技術部という組織であり、私の役割だと感じています。総合技術部が始動して約半年、少しづつ変化を実感し始めています。

総合技術部部長
田村 義彦
TAMURA Yoshihiko

技術職員は自ら学び続け、成長し続ける

TCカレッジ

2021年度から東京工業大学で始まった技術職員を対象とした高度人材育成のためのプログラム。高い技術力・研究企画力を持つ技術職員をテクニカルコンダクター（TC）として認定している。岡山大学総合技術部では、研究力向上とイノベーション創出強化を担う重要な人材として活躍できるよう2022年度から参画しており、2023年10月までに3人が受講している。また、今年度からは本学をサテライト校として「医工系コース」を新たに開講しており、全国の技術職員の技術力向上にも貢献している。

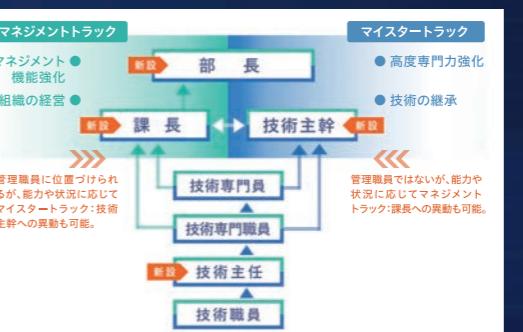


その実現のため生まれた組織が「岡山大学総合技術部」だ。全学の技術職員が1つの組織に所属することで、効率的な配置を図るとともに、研究者や事務職員と並ぶステークホルダーとして、大学経営に参画する存在となつた。

個々の技術は違えども、技術を持つ者として共通する部分が必ずある。そこをつなげるのが総合技術部という組織であり、私の役割だと感じています。総合技術部が始動して約半年、少しづつ変化を実感し始めています。

大学に求められる役割が拡大するにつれ、岡山大学においても技術職員の重複の解消を図るとともに、各々が有する技術や知識を高め、活躍の場を広げていくことが求められるようになってきた。

▲技術職員のキャリア
ダブルトラック制によりマネジメント機能の強化と各技術職員が希望するキャリアプランに応える制度となっている。



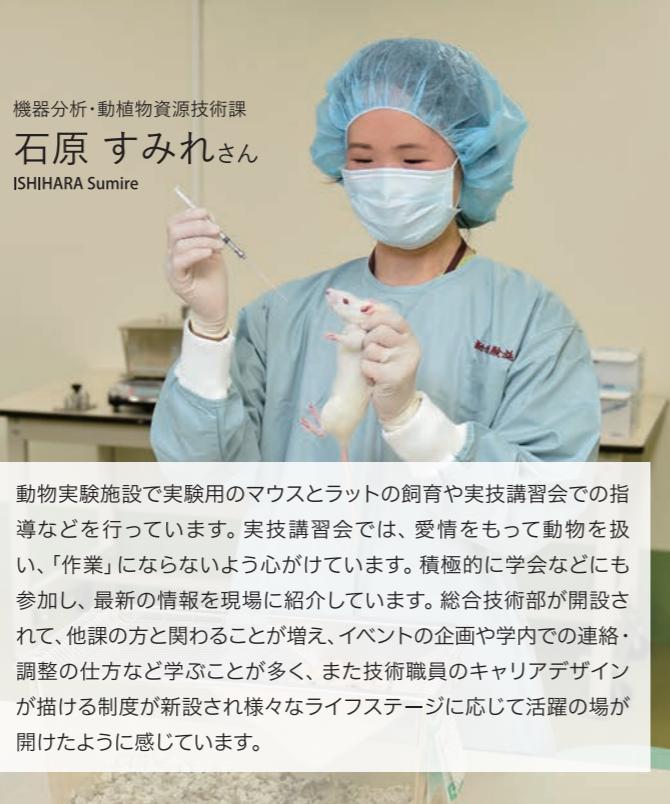
技術職員の声

設計製作・社会基盤技術課
里本 公明さん
SATOMOTO Kimiaki



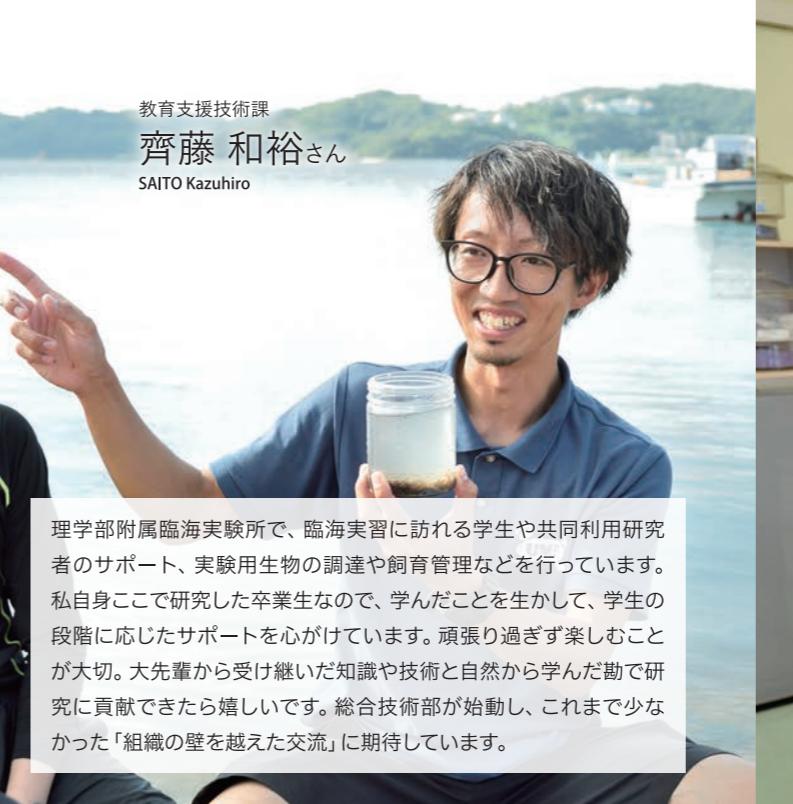
主に実験装置の設計・製作、機器の保守、実験室やフィールドでの計測の支援のほか、学生に向けた実験・実習の支援を行っています。次々に新しい研究が行われる中で、無理かもしれないと思える依頼を受けることもありますが、粘り強く検討・提案しています。「研究に貢献したい、期待に応えたい」という思いで40年技術職員を続けてきましたが、ものづくりが好きなのでやりがいも感じます。今は、自分が得たものをしっかり伝承していけるよう努めています。

機器分析・動植物資源技術課
石原 すみれさん
ISHIHARA Sumire



動物実験施設で実験用のマウスとラットの飼育や実技講習会での指導などを行っています。実技講習会では、愛情をもって動物を扱い、「作業」にならないよう心がけています。積極的に学会などにも参加し、最新の情報を現場に紹介しています。総合技術部が開設されて、他課の方と関わることが増え、イベントの企画や学内での連絡・調整の仕方など学ぶことが多い、また技術職員のキャリアデザインが描ける制度が新設され様々なライフステージに応じて活躍の場が開けたように感じています。

教育支援技術課
齊藤 和裕さん
SAITO Kazuhiro



理学部附属臨海実験所で、臨海実習に訪れる学生や共同利用研究者のサポート、実験用生物の調達や飼育管理などを行っています。私自身ここで研究した卒業生なので、学んだことを生かして、学生の段階に応じたサポートを心がけています。頑張り過ぎず楽しむことが大切。大先輩から受け継いだ知識や技術と自然から学んだ勘で研究に貢献できたら嬉しいです。総合技術部が始動し、これまで少なかった「組織の壁を越えた交流」に期待しています。

医学系技術課
塚野 萌美さん
TSUKANO Moemi



学内外の研究者から依頼を受け、電子顕微鏡の試料（サンプル）作製を行っています。「あの人に頼めばしっかり作ってくれる」と思ってもらえるように、基本的に忠実に、また失敗を防ぐための工夫をしています。「改善点があればすぐに検討し実行する」「冷静に確認・対応する」ことを心がけて研究者との信頼関係を築いています。今後は、技術職員として経験と実績を積み、後輩たちを支えられる存在になりたいです。総合技術部の一員として研修会などを通じて、横の繋がりを持ち、視野を広げていきたいです。

ウーバーラーパー研究

で輝く

生物が持つ未知の能力を解明し、
ヒトに応用できる研究成果を。

ピンク色に透きとおった体、笑っているような口元が愛らしい「ウーバーラーパー」は、驚異的な再生能力を持つことが知られる。大学院環境生命自然科学研究科1年の大蘆彩夏さんは、この能力に着目し、異分野融合先端研究コアの佐藤伸准教授の指導のもと、筋肉の再生や、皮膚の「ラーゲン構造の発生過程をテーマに研究に取り組んでいる。

高専3年生の時、生物に関わる化学に興味があり、人に応用できるような研究がしたいと考えていた大蘆さん。進学先を調べるうちに「ウーバーラーパーの肝臓の再生をテーマにした研究に入りたい!」と思い、本学理学部に編入した。同研究室に入つて最初にウーバーラーパーの肝臓の再生をテーマにした研究に取り掛かったが、仮説とは異なる結果に終わってしまった。その結果を踏まえ、学部4年生の10月頃から筋肉の再生に着眼点を変えて、研究に着手した。もともと、最終的には企業に就職して、研究で得たものを消費者に届けたいという思いがあつた大蘆さん。博士前期課程2年の夏には就職活動の末、内定を貰っていた。しかし「ここで研究を終えて良いのだろうか」という思いが沸き上がり、指導教員のアドバイスもあり、



島根愛

で輝く

の中では、島根県のふるさと親善大使「遣島使」に任命され、現在も島根のPRを続けている法学部2年の坂東優毅さん。島根にゆかりがあるのかと思いつき、兵庫県出身で、神戸市在住。生まれも育ちも島根ではないといふ。そもそも島根に魅せられたきっかけは、小学校2年生の時に家族で出かけた世界遺産の石見銀山への旅だったと、馴れ初めを振り返る。早朝に現地に到着したものの、周辺には店もなく途方に暮れていると、「朝ごはんを食べていませんか」と、見知らぬおばあさんが声を掛けてくれた。「なんて親切で温かい人だろ」と、子どもながら強く印象に残ったそうだ。そんな温かな「縁」から島根という土地が好きになり、何度も出かけるうちに、よりいっそう住民の人たちの温もりや、美しい風景に触れ、すっかり島根のとりこになつたという。

中学3年生の時には、自分で作ったPR用のスライドを島根県厅に送ったところ、県の広報課からいたく感心されたことも。なんと担当者が島根県の観光キャラクター「しまねっこ」を連れて、中学校まで訪ねてきてくれた。高校生の時には、松江市と出雲市を結ぶ

島根の人々と紡いだ
温かい「縁」を全国に広げたい。

島根に魅了されて、2019年に史上最多少で島根県のふるさと親善大使「遣島使」に任命され、現在も島根のPRを続けている法学部2年の坂東優毅さん。島根にゆかりがあるのかと思いつき、兵庫県出身で、神戸市在住。生まれも育ちも島根ではないといふ。そもそも島根に魅せられたきっかけは、小学校2年生の時に家族で出かけた世界遺産の石見銀山への旅だったと、馴れ初めを振り返る。早朝に現地に到着したものの、周辺には店もなく途方に暮れていると、「朝ごはんを

食べていいませんか」と、見知らぬおばあさんが声を掛けてくれた。「なんて親切で温かい人だろ」と、子どもながら強く印象に残ったそうだ。そんな温かな「縁」から島根という土地が好きになり、何度も出かけるうちに、よりいっそう住民の人たちの温もりや、美しい風景に触れ、すっかり島根のとりこになつたという。

中学3年生の時には、自分で作ったPR用のスライドを島根県厅に送ったところ、県の広報課からいたく感心されたことも。なんと担当者が島根県の観光キャラクター「しまねっこ」を連れて、中学校まで訪ねてきてくれた。高校生の時には、松江市と出雲市を結ぶ

好き! で輝く
(岡山大学の学生たち)

ローカル鉄道「一畠電車」を盛り上げるために、全国の鉄道ファンに呼び掛けイベントを開き、自主的に島根のPRに努めてきた。「思いついたら何でもすぐに実行に移してしま

う性格なので」と笑うが、その行動力や周囲を巻き込む力は、素晴らしい性格やコミュニケーション能力のなせる業であろう。その「島根愛強めの大学生」というユニークなキャラクターが、全国ネットのテレビ番組にも取り上げられ、一躍有名になつたことも。

本学の法学部に進んだ理由は、活動を通じて自治体と関わりを持った経験から、「行政の仕事に興味を持って、公務員になるのなら法律のことを知っておいたほうが良いと感じたから」。1年生の時には、教養教育科目の「アントレーナーシップ」を受講。公務員だけなく起業へも視野が開けたという。坂東さんのこうした活動が島根県の雇用政策課にも伝わり、その縁で現在は「しまねっこ」という島根県のリターン就活支援事業にも関わっている。島根県出身者のネットワークづくりのため、11月3、4日に開催された岡山大学祭では、島根

をPRするブースをなんと個人で設置。島根出身の大学生や島根の方々の協力を得ながら、特産品の販売や観光スポットの紹介を行つた。「まずは島根に関心を持ってもらいたい」と語る坂東さん。今後どう島根と関わっていくか、いろいろと思案している。「移住するのがいいのか、島根で全く別のことをするのがいいのか、島根以外でPR活動をするのがいいのか…まだ検討中です」と率直に答える。「島根は過疎化という地方が抱える課題の最先端を走る地域。自分が島根と全国を繋ぐことで地方のモデルケースを作っていくことができれば」と目を輝かせる坂東さん。持ち前の行動力と発想力で、島根から始まった温かな「縁」を広げてくれるだろう。



大学祭当日には「しまねっこ」がブースに登場。
まずは岡山大学で島根とのご縁が広がった。

大蘆 彩 夏

おお あし あや か

「進学してさらに研究を深め、ドクターを目指そう!」と方向転換することを決意。「この進学」という決断が自分の人生の中で一番のサプライズでした」と笑いながら振り返る。

毎日ウーバーラーパーと向き合い、前腕の筋肉を採取しては変化を記録していくという地道な作業を続ける中では、時間をかけて作った貴重なサンプルをなくしてしまった…とい

う失敗もしばしば。研究においては、あまり感情の波がないという大蘆さん。自分の中では仮説どおりだと思つて報告した結果が、「これはおもしろい」と評価されはじめて「え? そななん?」となることもあるとか。研究室内でコミュニケーションを取ることにより新たな発見につながることもある。いつもは各自のテーマで研究に打ち込んでいる

メンバーだが、「みんなは実験をどうやっているの?」「こういう時はどうすればいい?」など、気軽に聞くことができる間柄。またプライベートでは後輩と一緒に食事を行つたりすることもあるといい、「気軽に

いう時はどうすればいい?」など、気軽に聞くことができる間柄。またプライベートでは後輩と一緒に食事を行つたりすることもあるといい、「気軽に

う志は今も大蘆さんが、取り組んでいる研究が、ゆくゆくは臨床や応用研究にも役立てるようになれば」と夢を描く。高専生の時に抱いた「人に役立つような仕事がしたい」とい

う志は今も大蘆さんの原動力になつていて。



» 研究教授・研究准教授制度のご紹介

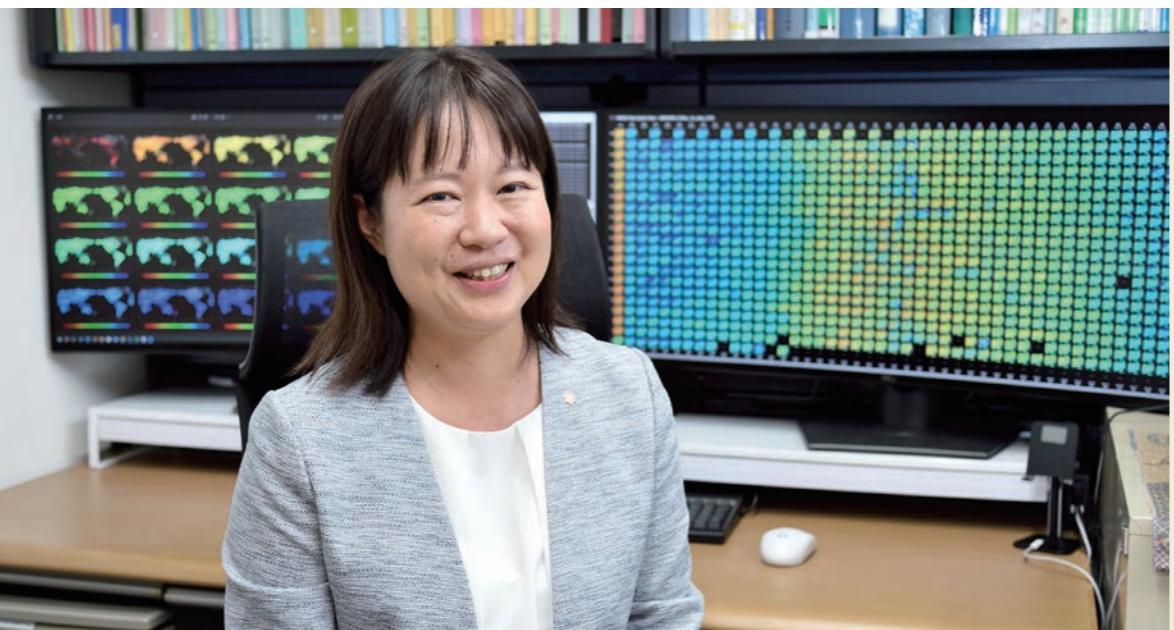
本学では、研究力強化促進と若手研究者育成などの観点から、優れた研究業績を有する研究者を全学を挙げて支援しています。その一つとして准教授が独立した研究代表者(PI:Principal Investigator)として活躍することを促進する「研究教授」制度を2018年に創設。2020年からは講師と助教を対象とした「研究准教授」制度も実施し、2023年10月時点で研究教授6人、研究准教授20人が選任されています。選任された研究者には、研究費配分や研究環境の充実などのインセンティブが付与され、自身の研究分野を牽引する研究者として活躍されることが期待されます。

詳しくは研究推進機構のHPをご覧ください。<https://www.orsd.okayama-u.ac.jp/kenkyusha/research-professor/>



辻本 久美子 研究准教授

学術研究院環境生命自然科学域(工)



困っている人たちにとつて
ドラえもんの道具みたいなものを作りたい。

気候変動によって雨の降り方がどう変わるのが、世界のどこでいつ雨が降るのか、それが農業にどう影響するのかを導き出すため、人工衛星でリモート観測したデータをモデル化。分野横断型の「気候・水・農業ネクサス」をテーマに研究を進めている。

幼い頃から、世界で起こる問題を自分事として捉えて心を痛めることがあったという辻本研究准教授。「自分が何気なく過ごしている今この瞬間も、世界には困っている人がたくさんいるのではないか」という思いがあったという。当時から大好きだったドラえもんの秘密道具みたいに、困っている人を助けられるものを作りた。人を助けるのが芽生えた。

学部生の時から、カンボジアなどいわゆる「発展途上国」に興味を持ち、現地へ赴いて研究に没頭。観測データを得るためにセンサーを徹夜で設置したことなどもあったという。

2017年、岡山大学に着任したのは結婚したばかりの時。出産、育児など、研究よりもはるかに予測のつかないライフステージの変化に、「この手法で研究を続けるのは無理かもしれない」と悩んだこと。もあつたが、リモートセンシングと数値シミュレーションを用いる現在の手法を確立した。

研究手法の工夫も功を奏成金の使途が広がったことで、研究をアピールする機会が得られたのも大きな変化だ。

将来的には現地へ戻り、データが少ない地域の調査をしたくといふ。「10年後、15年後に現地に行って、数値解析で立てた仮説の答え合わせができるのが楽しみです」と期待を膨らませる。

現地の魅力を尋ねると「実は研究は二の次で、とにかく『人』なんです。現地の人々は、



▲辻本研究准教授の研究者総覧はコチラ



▲カンボジアの水田地帯でセンサーを設置する様子。

岡山大学の研究者に

「何を研究してるの?」「なんで研究者になったの?」

という素朴な疑問を聞いてみました。

研究に対する想いとともに、岡山大学の研究者支援制度をご紹介します!

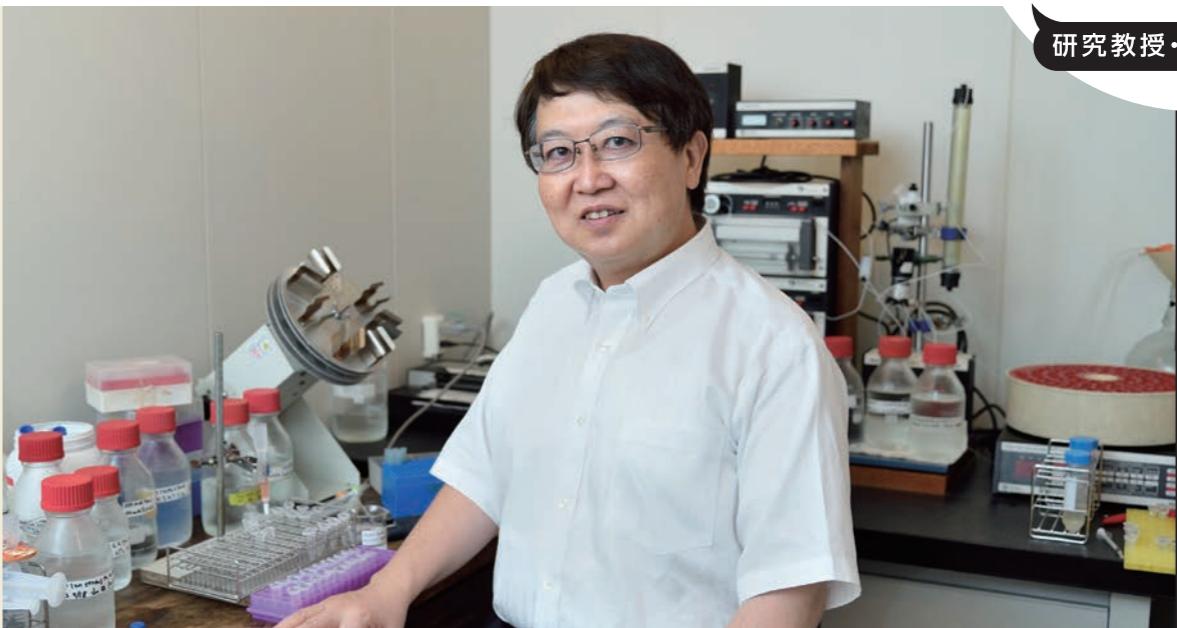
今回は研究教授・研究准教授の研究室をノックしてみました!

研究室の
扉をノック
してみた

研究教授・研究准教授編

山田 浩司 研究教授

学術研究院医歯薬学域(医)



研究は99・9%当たらない。
でも、新しい発見をしたいという熱意は
きっと0.1%に導いてくれる。

エイズ、結核と並ぶ世界三大感染症のひとつとして知られるマラリア。年間約2.5億人が罹患し、死者は約62万人になる。近年、既存の薬に耐性のあるマラリア原虫が出現し、その対策が急務となっている。

タンパク質の機能と構造の研究を専門とする山田研究教授は、マラリア原虫の細胞分裂におけるマラリア原虫にも効果のある新薬の開発を進めている。

一方で、腎臓の機能低下による漏れ出てしまうタンパク

タンパク質「ダイナミン1」を世界初めて発見。タンパク質を改善するための創薬への道を照らした。

画期的な発見までの道のりを「研究はコツコツと、根気よく」。研究はコツコツと、根気よく

くが大事です」と振り返る山田研究教授。「99・9%は当たりません。でも、他の研究者と協力して複数の手法を試すこと

で、0.1%の発見にたどり着くことができる。常に新しいものを見つけたい、そしてその

ところができます。常に新しいものを見つけたい、そしてそのことを研究への信念を熱く語る。実はもともと化粧品会社で勤務したことがあるという経歴の持ち主。当時培ったフットワークの軽さとコミュニケーション力は、他の研究者のものと足を運んで話をしながら研究を進めるという現在の研究スタイルに息づいている。また、

その経験を生かして、多忙なワーカーの軽さとコミュニケーション力は、他の研究者のものと足を運んで話をしながら研究を進めるという現在の研究スタイルに息づいている。また、

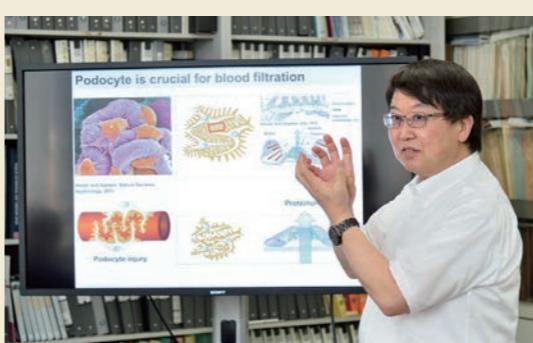
その経験を生かして、多忙なワーカーの軽さとコミュニケーション力は、他の研究者のものと足を運んで話をしながら研究を進めるという現在の研究スタイルに息づいている。また、

その経験を生かして、多忙なワーカーの軽さとコミュニケーション力は、他の研究者のものと足を運んで話をしながら研究を進めるという現在の研究スタイルに息づいている。また、

それが、岡大の山田と言われる「マラリアの細胞分裂といふ研究への信念を熱く語る。実はもともと化粧品会社で勤務したことがあるという経歴の持ち主。当時培ったフットワークの軽さとコミュニケーション力は、他の研究者のものと足を運んで話をしながら研究を進めるという現在の研究スタイルに息づいている。また、

その経験を生かして、多忙なワーカーの軽さとコミュニケーション力は、他の研究者のものと足を運んで話をしながら研究を進めるという現在の研究スタイルに息づいている。また、

それが、岡大の山田と言われる「マラリアの細胞分裂といふ研究への信念を熱く語る。実はもともと化粧品会社で勤務したことがあるという経歴の持ち主。当時培ったフットワークの軽さとコミュニケーション力は、他の研究者のものと足を運んで話をしながら研究を進めるという現在の研究スタイルに息づいている。また、



▲「ダイナミン1」の発見は米国の学会誌の表紙にも掲載され注目を浴びた。



▲山田研究教授の研究者総覧はコチラ



漕艇部

清野 雄大さん 池田 大悟さん
堀江 里彩さん 神尾 羽菜さん

ヨット部

藤原 誠一さん 田渕 快さん

テニス部

宮川 真輝さん 野内 綾太さん
村田 智哉さん 嶺岸 裕美さん

水泳部

有富 一真さん 真鍋 陽生さん 濑戸 禅貴さん
三好 凜さん 苔口 陽香さん

陸上競技部

旭 隼佑さん 楢崎 理海さん 青木 優奈さん
福永 伸之介さん 関口 知弘さん 山根 みのりさん
原田 雄真さん 岩崎 亮太さん 藤原 佑斗さん

少林寺拳法部

武田 蓮さん 大川 美咲さん 平岡 未羽さん
江本 真理子さん 岡崎 千尋さん

ウェイトトレーニング部

渡辺 聰太郎さん 戸田 尚希さん 谷井 洋介さん

医歯薬バドミントン部

石部 健太さん 高橋 賢史朗さん 西垣内 哲さん
小川 陽生さん 山崎 新子さん 仁尾 文音さん

医学部漕艇部

坂尾 値佳子さん 石川 愛萌さん 寺島 美優さん
黒川 結可さん 松岡 あさひさん

鹿田陸上競技部

多胡 遥香さん

女子アイスホッケー部

医歯薬バドミントン部

女子ハンドボール部

女子ラクロス部

テニス部



柔道部

● 第62回全国国立大学柔道優勝大会 ベスト8



素晴らしい賞をいただき、とても光栄です。師範や監督をはじめ、先輩方や関係者様からの日々のご指導、ご支援の賜物と思思います。今後もさらなる活躍ができるよう、岡山大学柔道部一同、日々の稽古に励みたいです。
代表:塙崎 大世さん(工学部2年)

● 第62回全国国立大学柔道優勝大会 個人

優秀選手賞 山口 源人さん(法学部4年)

ウェイトトレーニング部

● 第49回全日本学生パワーリフティング選手権大会 団体 パワーリフティング 団体戦 第2位



地域やOBの方々に応援していただいた結果として栄誉ある賞に選考いただき、誠にありがとうございます。文武両道の岡山大学の代表として、感謝の気持ちを胸に部員一同インカレ団体優勝に向けて引き続き精進してまいります。
代表:谷井 洋介さん(法学部4年)

● 第49回全日本学生パワーリフティング選手権大会 個人

女子 63kg級 第3位 福田 彩乃さん(卒業生)
第5位 Ibegwam Chigaemezuさん
(グローバル・ディスカバリー・プログラム4年)

第6位 尾方 萌々々さん(卒業生)
女子 52kg級 第1位 藤井 紗希さん(卒業生)
第2位 Ingyin Phooさん
(グローバル・ディスカバリー・プログラム4年)

男子 105kg級 第3位 山田 英樹さん(卒業生)
男子 93kg級 第4位 Sabai Ocean Bell Hartwigerさん(卒業生)
第6位 内海 雅貴さん
(大学院環境生命自然科学研究科博士前期課程1年)

男子 74kg級 第4位 松井 大知さん
(大学院環境生命自然科学研究科博士前期課程1年)

男子 59kg級 第5位 稲垣 輝さん(卒業生)
男子 53kg級 第1位 小倉 正太さん
(大学院環境生命自然科学研究科博士前期課程1年)

第3位 青柳 宏さん
(大学院環境生命自然科学研究科博士前期課程1年)

放送文化部

第39回大学NHK放送コンテスト 映像番組部門 第1位

ダンス部

防災ダンスを用いたワークショップを開催

交響楽団

第69回定期演奏会を開催

● 岡山大学校友会活動における多大な貢献

校友会体育会総務委員長
茨木 邦斗さん(経済学部4年)



日々奮闘する
岡大生を表彰!

令和4年度

「学生スポーツ賞」&「学生文化奨励賞」受賞者紹介

岡山大学では、学業や文化活動、スポーツなどで優れた成績を挙げた学生を毎年表彰しています。

正課外スポーツ活動において優秀な成績を収めた個人・団体を表彰する「学生スポーツ賞」、

正課外文化活動において優秀な成績・活動業績が認められた個人・団体を表彰する「学生文化奨励賞」を受賞した学生を紹介します。

奮闘する岡大生たちの活躍に、今後もご期待ください!



鹿田陸上競技部

● 第77回全日本医歯薬獣医学対校 団体 陸上競技選手権大会 女子トラックの部 第3位



この度はスポーツ優秀賞をいただき大変光栄です。大会や大学関係者の皆様をはじめとする、私たちに関わってくださる全ての方々への感謝の気持ちを胸に走り続けていきますので、今後も鹿田陸上競技部の応援をよろしくお願いします。代表:篠原 七海さん

● 第77回全日本医歯薬獣医学対校 団体 陸上競技選手権大会

女子4×400mリレー 優勝

宮本 かれんさん(薬学部4年) 渡邊 星奈さん(薬学部4年)
加藤 優衣子さん(医学部3年) 藤井 美春さん(薬学部2年)

女子4×100mリレー 第3位

篠原 七海さん(薬学部3年) 宮本 かれんさん
加藤 優衣子さん 渡邊 星奈さん

男子3000m障害 優勝

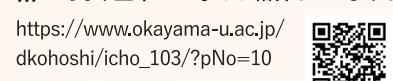
石鍋 風一さん(歯学部3年)



大会新記録

»» いちょう並木103号でご紹介しています!

https://www.okayama-u.ac.jp/dkohoshi/icho_103/?pNo=10



水泳部

● 第69回全国国公立大学選手権 团体 水泳競技大会 男子第4位 女子第5位



この度は受賞することができ誠に光栄です。私たち水泳部は日頃より、最大限の努力を重ね、高い目標へと邁進しております。今後も名誉ある功績を刻むことができるよう精進してまいります。水泳部をよろしくお願いします。代表:瀬戸 禅貴さん(工学部4年)

● 第69回全国国公立大学選手権 水泳競技大会

男子200m背泳ぎ 第3位 柳 遥貴さん(理学部2年)
男子400m個人メドレー 第8位 矢野 和尊さん(工学部3年)

男子4×100mフリーリレー 第3位 村上 太一さん(教育学部2年)
多田 貴資さん(工学部3年)

男子4×200mフリーリレー 第5位 竹内 悠翔さん(農学部2年)
女子4×100mメドレーリレー 第6位・女子4×50mフリーリレー 第6位

柳生 笑利さん(経済学部4年) 大高 八重子さん(農学部3年)



● アカペラ学生日本一を目指す 「ハモネプリーグ2022」にて、決勝12組に選出

ビリペル

澤田 健太郎さん(大学院環境生命自然科学研究科博士前期課程1年)
深田 翔貴さん(理学部4年) 木村 弥映さん(文学部4年)
藤原 光樹さん(工学部4年)

»» いちょう並木102号でご紹介しています!

https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/kohoshi2023/icho_102.pdf?page=5



● 岡山大学校友会活動における多大な貢献

校友会文化会総務委員長

西尾 洋紀さん(農学部4年)

この度は名譽ある賞を受賞し、光栄に思っております。今回の受賞は、顧問である中山芳一准教授からの指導と各委員からの熱心なサポートに支えられた結果です。この経験を励みに、今後も更なる努力を積み重ね、粘り強く邁進していきたいと思います。



“AIの目”による イネ収穫量の簡単・迅速推定

学術研究院環境自然科学学域の田中佑准教授らの研究グループは、大量のイネ画像と収穫量のデータをAIに学習させることにより、野外で生育するイネの収穫期の画像を撮影するだけで、高い精度で面積あたり収穫量を推定する技術を開発しました。本技術は幅広い品種や環境条件に適用可能で、スマートフォン等があれば誰でも簡単にイネ収量の推定が可能という点が最大の特徴であり、いわばイネの収穫量を見極める“AIの目”を実現したと言えます。

この技術により、イネの収量調査が大幅に省力化・迅速化され、最適な栽培法選択や政策立案など、多方面にわたって活用されることが期待されます。

本研究成果は、国際誌 *Plant Phenomics*に現地時間6月29日付でオンライン公開されました。



PICK UP!



学生×岡山市役所食堂のコラボで TFTメニューが誕生

岡山大学SDGsアンバサダー公認活動「岡山大学TABLE FOR TWO(TFT)」が中心となり、岡山市役所の食堂でTFTメニューの提供を7月24日から開始しました。TFTは先進国の参加者と開発途上国の子どもたちが、時間と空間を越え食事を分かち合うことで、先進国の飢餓と開発途上国の飢餓の同時解決を目指す日本発の社会貢献運動です。岡山市役所と協力し、本企画を実現した岡山大学TFTの増山乃々子さん(経済学部3年)は「学内だけでなく、学外での活動ももっと広めて、TFTについて多くの人に知ってもらいたい」という思いからこの活動を企画しました。少しでも多くの方にお召し上がりいただき、TFTを身近に感じてもらう機会となればうれしいです」とコメントしました。



大学の動き(2023年7月～10月)	
2023 7月	<ul style="list-style-type: none"> 12日 ● 平成30年7月豪雨災害から5年、復興を支えた本学の総合知識と災害レジリエンスをテーマにしたシンポジウムを開催 28日 ● 中小企業のDXを強力に後押しする産学官金連携支援コミュニティ「DXサンライズおかやま」を発足 31日 ● 「岡山大学最重点研究分野」として7つの分野を制定
8月	<ul style="list-style-type: none"> 1日 ● グッドジョブセンターが学長・理事との懇談会を開催 8日 ● 岡山大学・米国務省「重要言語奨学金(CLS)プログラム」閉講式を挙行 25日 ● 文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(応用基礎レベル)」に認定
9月	<ul style="list-style-type: none"> 1日 ● 公益財団法人高輝度光科学研究センターと連携・協力に関する協定を締結 5日 ● 岡山大学工学部工学科情報工学先進コースの設置が認可 25日 ● 令和5年度秋季学位記授与式を挙行
10月	<ul style="list-style-type: none"> 2日 ● 岡山大学職員の内定式を開催 20日 ● 岡山大学国際同窓会総会を開催 21日 ● 岡山大学ホームカミングデイ2023を開催

ぜひフォローしてください♪

学生の活躍発信中!
岡山大学公式SNS

オープンキャンパス2023を開催!

OPEN CAMPUS

8月5日、6日、8日、9日、10日の5日間、オープンキャンパスを開催し、県内外から6500人を超える高校生が参加しました。

各学部の紹介や入試制度の説明のほか、研究室や農場の見学、本学の在学生や教員との相談会など、多彩な催しが開かれ、参加した高校生は熱心にメモを取ったり、入試制度や大学の講義内容、将来の進路などについて積極的に質問をしたりしていました。

また、法学部ではサプライズで須保友学長が訪れ、「皆さん一人ひとりが主役です。岡山大学は学生の夢を応援しています」と応援メッセージを送りました。その後行われた写真撮影では、学長が高校生に声をかける場面もみられるなど、和やかな雰囲気で交流しました。



令和5年度秋季 岡山大学入学式、大学院入学式を挙行

CEREMONY

10月2日、秋季入学式を創立五十周年記念館で行い、グローバル・ディスカバリー・プログラム学生25人と大学院生139人が大学生活へのスタートを切りました。

式では須保友学長が「SDGsを推進する研究大学で学ぶ学生として、革新的な発見、技術、応用を生み出し、世界に発信できるよう、仲間とともに多くの新しいことを学んでいただきたいと思います。そのためにも、岡山県の歴史や文化、豊かな自然を感じる機会を楽しんでください」と英語で式辞を述べました。

新入生を代表して、グローバル・ディスカバリー・プログラムのMAY HSU MON CHOさんが「私たちは世界の様々な地域からここに集まり、それぞれが唯一無二の経験を持ち、多様性を高めています。私たちは、互いの違いや価値観を尊重し、互いの成長を支え合い、夢に向かってたゆまぬ努力を続けることを誓います」と宣誓しました。



PICK UP!

令和5年度9月 「岡山大学学会賞等受賞者表彰 表彰状授与式」を開催

9月28日、「岡山大学学会賞等受賞者表彰 表彰状授与式」を本部棟で行いました。

本表彰は、学会などが制定する賞を受賞した学生について、それを高く評価し、顕彰することを目的とするもので、今回は自薦・他薦の学生12人を表彰しました。

菅誠治理事(教学担当)・上席副学長は「各学会での受賞は皆さんの日頃の勉学における不断の努力の成果であり、深く敬意を表します。これからも学業に邁進されることを期待しています」と激励の言葉を述べました。受賞者を代表し、大学院自然科学研究科博士前期課程2年の田主春月さんは「今回の受賞を励みに、より一層、研究活動に邁進していくとともに、4月からは社会人として、本学で得た知識・技術をもとに、社会の発展に貢献していきたいと思います」と謝辞を述べました。



岡大ピッチコンテスト2023を開催

CONTEST

9月30日、起業を志す学生、教職員が自らのビジネスプランを発表する「岡大ピッチコンテスト2023～ハーベスト・ピッチ～」を共育共創コモンズで開催しました。

このコンテストは本学の創業機運を醸成するとともに、自由で斬新な事業アイデアを発掘することを目的としたもので、合計27組のエントリーの中から事前審査を勝ち抜いたファイナリスト10組が登壇。各ファイナリストが自身のビジネスプランについて工夫を凝らしたプレゼンテーション(ピッチ)を行い、「ウシの受胎性を悪化させている要因を推定するためのサービス」について発表した学術研究院医歯薬学域の内山淳平准教授が最優秀賞に選ばれました。



1枚の写真から紐解く、岡大の歴史。
誰かにそっと教えてくなる…そんなエピソードとともに紹介します。

岡大 OU Pictorial History

モノクローム #07



岡山大学大原農業生物研究所 1951(昭和26)年頃

岡山大学には特色ある4つの研究所があります。

その1つ「資源植物科学研究所」は岡山県倉敷市に広大な敷地を持ち、劣悪な環境下でも生育可能な作物の創出に向けた基礎研究を推進しています。

その源流は、実業家である大原孫三郎氏が1914(大正3)年に創立した「財團法人大原獎農会農業研究所」までさかのぼります。大原氏は当時深刻化しつつあった食糧問題に着目。「来るべき農業問題に貢献できれば非常に幸せ」との思いから、農業の科学的研究と農民の福祉向上のための農事改良を目指し、私立の研究所を創立しました。1951(昭和26)年に岡山大学に移管され、時代とともに研究領域が変化・拡大しても、その精神は脈々と引き継がれています。

(参考:岡山大学資源植物科学研究所HP、倉敷紡績株式会社HP 大原孫三郎人物伝)



岡山大学広報 いちょう並木

より良い広報誌を作成するために、皆さまからのご意見・ご要望をお待ちしております。

発 行：岡山大学 総務・企画部 広報課

〒700-8530 岡山市北区津島中一丁目1番1号

Tel. 086-252-1111 Fax. 086-251-7294

E-mail www.adm@adm.okayama-u.ac.jp

<https://www.okayama-u.ac.jp>

岡山大学

検索



読者アンケート
実施中! ▶▶
抽選で3名様に
「大学の岡山ガイド
—こだわりの歩き方」
(岡山大学文明動態学研究所 編)
プレゼント!

